

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あづま児童発達支援センター「宙-そら」		公表日 2025年3月27日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	1	1人1人のスペースで、個々の活動に集中出来る様に工夫されている。	人数によっては、活動場所が狭くなることもあり、お互いに声を掛け合って遊戯室等の使用方法について工夫していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	4	配置数は適正である。	欠席などで、人数に偏りがある時は、見守り、余裕がある時は事務作業を進めたり、効率よく配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	0	スケジュールの視覚化や、見やすい位置に指示カードを設置している。構造化も分かりやすくされている。	間仕切りの角や、床のささくれ等、ケガの無いよう、配慮が必要である。ヒヤリハットを活用し、全職員で共有していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	0	毎日の療育前の清掃に加え、消毒や一人ひとりの子どもに合わせた環境作りがされている。年に2回、室内環境の見直しをしている。	常に、清潔な空間を保てる様に、毎日の清掃を欠かさない様にする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14	0	その時の様子によって、個別スペースを確保し、クールダウンに繋げている。	子どもの意思を尊重し、職員同士で子どもの特性の共有が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	0	その日の目標と振り返りについては、毎日おこなっている。クラス職員の中では、共有が出来ている。	児発管の参加が少ないので、各クラスの振り返りを積極的に参加できる様にしてほしい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	0	職員会議等で全職員が参加し、保護者・従業者向け評価表についての、報告、改善に繋げている。	法人ホームページも各自確認し、課題があればそれぞれが話し合う機会を設けたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	0	面談が、しやすい環境が整っている。センター長との個別面談や、何気ない会話から思いを汲み取る機会が多いと感じる。	出来るだけ職員とのコミュニケーションを心掛け良い関係性を構築出来る様努力していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	2	全職員、利用している全保護者にも、法人ホームページで公表していることを伝えている。	内容についても、職員で共有し、可能な事から改善に繋げている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	0	定期的に研修(オンライン)の機会を設け、個別でも積極的に研修を受講出来る様、配慮している。	研修の振り返りや、報告の時間が十分に設定出来る工夫をしたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	2	支援プログラムの内容を職員と共有し、支援プログラムを作成。法人ホームページで公表している。	支援プログラムを作成するにあたり、もう少し時間をかけて、職員の理解を得て取り組むべきである。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	2	臨床心理士と児童発達支援管理責任者とで丁寧にアセスメントをし、作成している。	クラス担当をはじめ、職員とも会議を通して確認はしているが、児発管との連携及び、共通理解には課題が残る。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	2	職員全員が、共通理解を図れる様、検討会を開催している。	非常勤の職員にも伝わる様、検討会での議事録を残し、閲覧出来るよう工夫している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	1	担当者会議を開催し、計画に沿って支援している。アセスメント時の情報や、子どもの特徴について検討している。	出席者がよくわかるような資料の提示が必要であるが、個人情報には十分な管理体制が必須である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	0	日々、クラス担当者で意見を出し合いながら、行動観察をとりいれている。	ほのぼのを記録することで、日々の状況を確認出来る。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	1	支援計画が、ガイドラインに沿った、具体的な支援内容になるように努力している。	具体的な支援内容になるように、職員がガイドラインの内容をよく読み込み利用者の支援に繋がる内容にしていかなければならない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	0	各クラスと分担する係で、チームで話し合い、立案している。	普段からチーム力を培う為、接遇や思いやりの心をはぐくむ取り組みを行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	毎年、検討会を開き、固定化しないように工夫している。	それぞれの職員が意識を持って、取り組める環境を整えていく。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	遊戯室等を有効に利用し、サッカー教室や、ルールのある遊びを、体を使って楽しんでいる。	一ヶ所に集中しないように、職員の間を疎通を図っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	0	クラス中での話し合いは行われており、情報は共有できている。	児発管との連携には少し課題が残るが、チーム連携を大切にしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	1	クラス毎が多いが、必ずその日の振り返りを行い、職員同士意見を出し合い共有している。	話し合いの時間を確保することが、課題である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	ほのぼのに日々の様子等を入力し、ノートにも丁寧に記録し保護者にも説明している。	自分のクラスにとどまらず、検証・改善に繋がられる様、相談できる時間を確保したい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	2	6ヶ月・12ヶ月では行っているが、支援者からの聞き取りが不十分だと感じる。	担任・相談専門支援員・公認心理師など、チーム連携を強化し、適切な見直しを行って行きたい。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	1	児発管と公認心理師・担任・相談支援専門員・センター長が参画し、記録を残している。	個々の子どもの現在の状況をきちんと把握しないまま参加することの無いように注意しなければならない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	センター長をはじめ、子ども部会や、子ども発達支援センター運営委員会に出席して情報を共有している。	情報を職員に確実に伝え、連携して支援体制の強化を図りたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	保育園・認定こども園・幼稚園との間で、支援会議を開催し情報共有を行っている。保育園入園に向けて等の会議を開き、取り組むことが出来ていると思う。	今後、特別支援学校とも、就学に向けて、相互理解を図っていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	サポートシート、宙からの情報提供書等を用いて、相互理解を行っている。保護者からの依頼を受けて、学校との情報共有をしている。	保護者向けのミニ講座を早めに開催し、就学時の移行がスムーズにいくように情報提供をしている。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	13	1	福島市子ども発達支援センター運営会議や、子ども部会などで、他の自発事業所との意見交換や、情報交換など、質の向上に向けて会議を開いている。	障がい児通所支援事業所との意見交換の機会があり、勉強になった。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	14	0	出来る限り、外部研修や、他機関への研修に取り組んでいる。	全員が、学びの機会を得られるように、オンライン研修も取り入れている。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	14	0	センター長、児発管が定期的に必ず参加し、職員会議で詳細を伝えている。	実際に子どもに携わっている職員にも、参加出来る場があると良い。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			対象外	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	0	同法人の保育園との交流を年間で計画をたて、交流活動をしている。	保育園でのお買い物ごっこ・園庭遊び・合同避難訓練など工夫して、活動の機会を増やしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14	0	定期的なフィードバックや、送迎時のやり取りで細かに共有出来ている。	送迎時の時間を有効に使う工夫をしている。フィードバック資料もカラーコピーし、写真の掲載も多くしている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0	職員が、ペアレントトレーニングの研修に参加し、職員会議で詳細を伝えている。	保護者向けのミニ講座の中で、情報を提供し好評であった。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	0	契約時や、変更が生じた時は、丁寧に説明している。	オリエンテーション時にも、説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	0	アセスメント実施の際や、フィードバックの時などに十分に保護者の意向を聞き取り、子どもの療育に反映させている。	支援計画を作成の際には、児発管のみならず、職員で意見を出し合い、丁寧に協議するべきである。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14	0	児発管から説明を受けて、同意を頂いている。	職員が内容を、しっかりと理解しておくことが課題である。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	担任や、センター長、相談支援専門員も含め、相談しやすい環境作りを工夫し、定期的に行っている。	内容によっては、時間をとって保護者の悩みを聞き、助言をしている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	2	センター単独での保護者会発足は難しい局面があるが、親の会の交流には協力をしている。	年に数回のミニ講座や、保護者も参加する親子イベントを開催して、交流する機会を設けている。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	0	相談や申し入れがあった際は、直ちに長へ報告し、適切に対応し、解決を図っている。	当日の申し出でも、必ずセンター長や専門性の高い職員が丁寧に対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14	0	法人でのSNS、ホームページで定期的に発信している。センターでは、さくらメール等で保護者に発信している。	センターの宙便りを発行し、運営規定、重要事項説明書と共に保護者の目に付く所に提示してある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	職員全員が、誓約書に署名し、法人も含めて取り扱いには十分に注意している。	個人情報に値するものは、鍵の掛かる書庫に保管を徹底し、漏洩に留意している。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	資格提示や、口の動き等、様々な方法で、意思疎通を図っている。	視覚的な支援を主に行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	さつま芋収穫に向けての、畑作り、トマト狩り等、地域の方の力をお借りして運営している。	地域の方々との挨拶を大切にしている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	0	定期的に、全て実施している。	マニュアルの読み合わせや実施を定期的に行ったり、毎月、避難訓練を行っている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0	定期的に（BCP）の見直しを会議等で見直しをしている。避難訓練の実際を想定し、非常食の確認を行っている。	実際の役割を意識した訓練を定期的に行う事に難しさが残る。計画的な実施を定期的に行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0	入所時に、口頭・書類等で確認している。	定期的にこどもの状況を確認し、職員全員で共有する機会を設けている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0	医師の指示書に基づいて対応している。	食器やトレーの色を変え、間違いの無いように配慮している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	0	安全計画を基に、定期的に訓練している。	毎日、施設内の遊具等の点検・管理を行っている。ヒヤリハットを全職員で共有し、安全管理に活かしている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	0	緊急連絡の整備、緊急時を想定し、引き渡し訓練も実施している。避難場所を玄関に掲示している。	全家族への周知については、周知方法の検討が必要だと感じる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	部会などで、ヒヤリハットの検証を行い、再発防止に努めている。	危険に繋がる事の無いように、小さな事も気が付いたら、ヒヤリハットを記入している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	2ヶ月毎に部会を開催し、全職員が閲覧し、押印している。	外部講師や、職員が虐待防止の研修に参加している。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	3	基本的に、身体拘束は行わない。部会でマニュアルを作成し、職員に周知している。	身体拘束をしない前提で支援している為、「どの様な場合は？」を職員間で話し合いを行いたい。	